

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401459		
法人名	特定非営利活動法人 しまばら		
事業所名	グループホームたけふえ		
所在地	長崎県島原市有明町湯江丁2591-2		
自己評価作成日	平成25年12月8日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所当時からユニット毎の閉め切りは無く、気の合う仲間同士が自由に行き来する事が出来るようになっており、支援・活動において各ユニットの職員が中心となり、全職員が全利用者を把握しケアに努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設者の「自然の中でゆったりと暮らして欲しい」という思いから静かな地域に事業所は位置している。日当たりが良く、落ち着いた飾りつけのリビングで利用者は思い思いに寛いでいる。行政の要望で今年度取り組んだ地域に向けての「生き生き教室」は法人が考える地域福祉を具現化したものであり、高齢化が進む地域には貴重な事業所となっている。地域との繋がりは強く、事業所の避難訓練には地域の消防団や地域住民の参加がある。また、運営推進会議の意見をもとに廊下にテープを張り、避難経路がわかるようにする等、外部の意見を運営に反映している。実習生の受入れにあたり、指導のため職員が個別ケアの統一について話し合ったり、日々の支援の中で得た新たな情報をフェイスシートに書き込み、支援に繋げるなど事業所の質の向上に積極的に取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームたけふえ(1棟・2棟・3棟共通)
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事などに参加したり、地域のラジオで事業所紹介をしたりして事業所を知ってもらう機会を持つようにしている。また、職員は出来るだけ利用者の声に耳を傾けて話を聞くようにしている	「地域に根ざし地域社会つくりと福祉の増進」「心と体の力を発揮し家庭的な場の提供」を理念としている。職員は利用者がゆっくり過ごし、利用者の希望や変化にすぐ対応しているか、寄り添っているかを常に話し合い、会議録や日誌に記録して共有し、理念に沿った支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人として毎月1回の町内清掃を行っている。 毎年行っている夏祭りは、地域の方々の出し物の参加がある	町内会に加入し、毎月1回の清掃活動や散歩途中のゴミ拾いを行っている。じゃがいもなどの野菜の差し入れやハウスの苺取りなど交流があり、小学校の宿泊訓練では風呂を提供し利用者と交流があったり、事業所の夏祭りは子どもの合唱団や婦人会の踊りがあり地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会や老人会などの集まりに時間を頂き施設の説明など行ったり、餅つきなどの行事に合わせて見学会などを行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回行政や地域の参加があり、意見やアドバイスなど耳を傾け地域密着を目指している	2ヶ月毎、奇数月の第4火曜日に行政、自治会長、民生委員、家族など規程のメンバーが参加して開催している。事業所の活動報告や予定などを確認している。委員の提案で今年度からメンバーに民生委員を加えており、より地域に密着した会議内容となるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や質問などあれば市町村に問い合わせている。また、今年度は市町村主催の教室も主で開催している	市町村の企画事業参加要請を受け、「生きがい作りの教室」を年10回開催し、好評を得ている。また、市主催の研修会に職員が参加している。今後は介護相談員受入れも検討するなど、更なる連携の強化を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「待ってください」「座ってください」などの言葉の拘束はあると思う。玄関の鍵は日中はかけていないが、無断離設者が増えた為玄関のチャイムは昼夜問わず入れている。また、居室の鍵は基本的にかけないが必要に応じて家族に承諾をもらっている	母体法人で年1回、身体拘束についての勉強会を開催している。また、外部研修受講者は事業所内に内容をフィードバックしている。言葉遣いについて、職員間での相互注意を喚起している。利用者が外に出る時には職員と一緒に掛け拘束のない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	予防として職員の意識付けを行っているが職員の何気なく言った言葉でも傷つくような言葉の虐待があるかも知れない。身体に関しては入浴などの際にチェックも十分行うようにしている			

グループホームたけふえ(1棟・2棟・3棟共通)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	いつでも見れるようマニュアルを置いており、年間の勉強会にも取り入れている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学をして頂き、入所者やご家族の質問などに十分説明し、理解をして頂いた上で契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回のアンケートを実施 面会の際には会話を設けるよう心がけている	契約時に苦情受付について説明している。また、家族の訪問時には職員は会話する機会を持つよう努めており、家族が要望や意見を表出できる環境作りに努めている。居室の衛生面について家族から要望があり、迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや介護ミーティングなど日頃から職員の声を聞き入れている。また、年2回の面談も行っている	月1回全体ミーティングのあとスタッフミーティングを行い、職員の要望や意見を聞き取っている。職員は年度の目標を立てており、年2回管理者との面談時には自身で振り返って評価し管理者がアドバイスしている。実習生の受入れにあたり、統一ケアを指導できるよう話し合うなど全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年間目標を立てており、年2回の面談などでアドバイスや相談に乗っている。また、それ以外でも時間などをつくり話を聞く機会を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では毎月一回の勉強会を行い、技術の勉強会や外部講師による講義など行っている。また、法人外の研修などにも積極的に参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事やスポーツを通して他のグループホームや病院などとの交流会の場を設けたり、医療関係の研修会に参加したりしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所者の生活歴や趣味などの情報を把握し話などじっくり聞くようにしている。また、利用者同士のコミュニケーションがとれるよう職員が架け橋になるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	状態報告や近況報告などコミュニケーションをとりながら関係を密にするようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの話を行い、納得された上で入所して頂くようにしている。また、相談の際、他のサービスもある事も話している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗いなどの家事を一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など情報伝達をおこない、共に共有している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの申し出があれば外出や外泊の制限は行っていない ドライブ、友人の面会も自由である	ドライブで利用者の自宅周辺に出掛けることがある。また、法事や墓参りには家族の協力を得て出掛けており、近所の友人、入院中に仲よかった友人など利用者ごとに馴染みの人が訪問している。遠方から帰省した家族と外泊する利用者もいる。手紙や電話での連絡も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間が集まりやすいように空間制限を設けていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などによる退所者の方にも面会に行っている。また、家族の相談にもものっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の心身状況の書類を作成し、本人の希望や要望等も聞き生活リズムに合わせた日々を過ごして頂いている	職員は休憩時間よりリビングで利用者と会話している。日中、希望を聞き取った際には、できない判断をし、実行している。夜勤帯に聞き取った希望は朝の申し送りや伝言ボードに記し、更に利用者ごとの心身の情報シートに記載している。表出困難な場合は家族に情報を得たり、ボードや身振り、手振りなどで判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報収集を行い回覧して職員が把握できるよう努めている。入居の際には馴染みの家具などを持ち込んで良いよう話も行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間チェック表を活用すると共に、日誌に記録として残すことで職員が把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に要望等があれば取り入れるようにしているが、本人の要望となるとなかなか難しい所もある	長期1年短期3ヶ月で作成し、3ヶ月毎に見直している。各棟の職員がモニタリングし、リーダーが作成しており、利用者の思いは日々の支援から汲み取り、家族には計画案を基に確認している。24時間チェックシートで利用者一人ひとりの支援を明確にしているが、ケアプランとの連動が無く、プランの内容に個別性が薄い。	24時間チェックシートを活かし、一人ひとりに着目した課題を抽出し、日々の支援に繋げることが望まれる。又、記録への連動を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に残すことにより職員全員が共有し把握できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能性を活かした支援は必要なので柔軟な支援を行なうよう取り組んでいる		

グループホームたけふえ(1棟・2棟・3棟共通)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学生や中学生、高校生の実習受け入れも行なっている。また、必要に応じて警察や消防署、地元消防団などの協力もお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医にて治療を行なっている	近隣の主治医は継続しているが、遠方の場合は利用者や家族の意向に沿って変更している。受診は職員が支援し、変化がある場合は家族へ報告し、職員はパソコン内に記録して共有している。協力医療機関から往診があり、夜間の急変時はかかりつけ医へ連絡し対応するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護や看護資格を持った職員と常に共有し受診や看護にあたっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には随時面会を行い、病院側からの情報ももらうようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会の際に状態報告を行ったり受診結果の報告を行ないながら支援に取り組んでいる	家族や医療機関との連携のもと、看取りを行う内容の指針を整備している。現在は、職員の研修や医療機関との連携体制が整わず看取りは行っていない。重度化のときは他施設や病院を紹介している。ただし、老衰による終末期の支援は検討中であり、契約時に家族へ説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習や事業所の勉強会に取り入れながら何度も訓練を行なっているが、新人職員もあり、実際に事故や急変者があった場合に対応できるか不安ではある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域や地元消防団にも参加して頂き消防署立会いのもと、年2回の避難訓練を行なっている	3ヶ月毎に消防会議を開き、点検や避難訓練の計画や反省を行っている。年2回、消防署立会いのもと夜間想定での避難訓練を実施しており、消防団や地域住民の参加がある。また、地域での消火訓練に参加しており、備蓄品・非常持ち出し品袋の準備も有る。ただし、利用者ごとの情報の整備はこれからである。	災害時に、持ち出せる利用者の服薬等の情報整備が待たれる。また、訓練に参加していない職員の不安を払拭するために回数を増やすなど検討に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	損ねるような声かけなどはないようにしているがトイレの声かけなど難聴の方もおられるため大きな声になってしまう。また、居間にあるトイレのドアが開いている時もあるため注意することもある	利用者と目線を合わせるよう職員に注意している。年1回研修では、守秘義務徹底の確認を強化し、誓約書を取っている。言葉遣いは常に注意しており、失禁時は周囲に気づかれないように配慮し、着替えなどを支援している。ただし、トイレ介助の際のドアの開閉には配慮が必要である。	利用者の尊厳や羞恥心に配慮し、使用中のトイレのドアは閉めるよう職員間での支援の統一が望まれる。また、通路から男性便器が見えない工夫や居室のポータブルトイレなど利用者を配慮した取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や問いかけにより出来るだけ聞きだすようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先で一人一人のペースで過ごしてもらっているが希望に沿っているかは疑問である		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容室に依頼している 女性利用者は希望に応じ毛染めをしたり、敬老会などでは化粧なども行い参加してもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に聞き取りしたり、入所後は栄養アセスメント表を作成している。また準備や片付けなども一緒に行なってもらっている	利用時の嗜好を把握し、外注業者が代替食も準備している。3ヶ月毎に給食会議を開催し、希望を伝えており、新しい利用者の情報も報告している。また、外食に出掛けたり、庭で弁当を食すなど利用者が食事を楽しめるよう支援している。主菜が冷たい場合もあり、配食業者と温度管理の相談を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も一緒に食べながら摂取量のチェックを行なっている。水分においては、昼夜居室へお茶を置いている。また、食事摂取が気になる方においてはチェック表をつけたり日誌に落とすようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	身の回りが出来る方には声かけを行い介助が必要な方は食後のトイレ誘導の際に嗽や入れ歯洗浄など行なっている		

グループホームたけふえ(1棟・2棟・3棟共通)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをしながら定期的なトイレ誘導や声かけを行っている	排泄チェック表は個々に記録し、パターンを把握して支援している。職員は様子を見ながら、利用者にはさりげない声掛けで誘導している。定期的な誘導の結果、リハビリパンツから布パンツとパッドに改善した例もある。また、自立している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課の体操に参加してもらったり水分を多めに摂ってもらったりしているが自己報告の場合もあるため確実さに欠ける		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は全員毎日入浴だが、希望や声かけにより入浴をしてもらっている	一日置きに全員が入浴している。入浴拒否の場合は職員を替えて誘導するなど工夫している。車椅子の利用者も浴槽に浸かれるよう支援しており、また、皮膚の状態に合わせてシャンプー等を選ぶなど配慮している。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯も提供しており、同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にて休んで頂いたり見守りが必要な場合は畳の間にて横になって頂くようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに挟んでいつでも見れるようしているが、副作用までの理解が出来ているかは不安である		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器洗い、食器拭きなど自分達で出来る仕事を役割分担して行なってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、地域の行事などに出かけたりしている。また、家族に協力して頂きお盆の墓参りなど行なっている	天気の良い日には中庭を散歩している。病院受診の後にフラワー公園にドライブしたり、買い物と一緒に掛けている。墓参りに希望には早急に対応しており、毎月1回は外出の計画を実行している。初詣や花見などに出掛けたり、初市では旅館で食事するなど戸外に出掛けるよう工夫している。	

グループホームたけふえ(1棟・2棟・3棟共通)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は本人と家族の意向により行なっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望の方には支援しているが、帰宅願望の強い方などには偽電話などで対応したりしている。手紙は要望に応じて対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や物などを飾っている	回廊式の廊下から中庭が望め、リビングは大き目のソファや大型テレビがあり、利用者は思い思いに寛いでいる。建物内は過剰な飾りつけがなく利用者が落ち着く空間となるよう配慮している。トイレは毎日1回職員が掃除しているが、匂いやゴミなどが気になるところである。	快適なトイレ空間を提供するためには匂いやゴミなどに配慮し、使用後のチェックとこまめな点検、清掃等について検討を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット毎の仕切りがなく気の合う仲間が自由に行き来できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方の居室に泊まって頂くため、くつろいで頂けるよう食事やお茶など居室にて摂って頂く様にしている	広めの居室は掃きだし窓から明るい陽射しが入り、フローリングと畳敷きの居室は利用者の意向や状態で決定している。持ち込みの制限は無く、自身の作品や家族の写真など馴染みの物を置き、寛げる空間となっている。掃除は基本的には職員が行い、利用者によっては一緒に掃除する事もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や失敗などがないよう職員が支援している。また、居室が解らない方にはドアに大きく名前を貼ったり職員が案内したりしている		